

## 飼料作物害虫の発生相に関する研究(II)

山元四郎・岡田忠虎・末永 一

YAMAMOTO, S., OKADA, T. and SUENAGA, H.  
A Preliminary Research on the Seasonal Prevalence of  
Insects in Fields of Forage Crops (II)

畜産振興に伴って、飼料作物が重視されるようになり、その栽培面積は増大する傾向にあるが、それらは害虫による著しい被害を被ることが少なくない。筆者等は飼料作物害虫の種類及び発生相を明らかにするために1961年10月以降調査を行っており、大体の様相を知り得たので飼料作物圃場に生息する害虫の種類及び発生加害程度について、更に1963年8月6日熊本県阿蘇郡長陽村農林省種畜牧場阿蘇支場の牧野を調査する機会を得たのでその結果を報告する。なほ本調査を進めるに当って協力と援助を戴いた九州農業試験場畜産部長高永信氏他畜産部の諸氏に、また一部のヨコバイ類の種名同定を煩わした農業技術研究所長谷川仁氏に感謝する。

調査方法：熊本県菊池郡西合志村、福岡県筑後市の九州農業試験場内飼料作物圃場において、イネ科作物11種、マメ科作物4種、十字花科作物1種についてサ

クション・キャッチャー、捕虫網および観察による定期的な調査、阿蘇郡長陽村においては原野2地区と改良2年目の人工草地3地区について1地区2地点を選んで捕虫網を用いて1地点往復10回振りの掬い取り調査を行った。

調査結果：I. 飼料作物圃場において156種の害虫が認められたが、そのうち生息数の多い種および加害程度の高い種とこれらの主な加害作物、主な発生時期は第1表の通りで、イネ科作物ではイネヨトウ、アワヨトウ、アワノメイガ、トバヨコバイ、ヒメトビウンカ、マメ科作物ではハスモンヨトウ、ヨトウガ、コフサキバガ、ホタルハムシ、ヒメキバナサルハムシ、エンドウアミナシヒゲナガアブラムシ、ナメクジ、十字花科作物ではハスモンヨトウ、コナガ、キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシなどが最も重要な害虫と思われた。

第1表 飼料作物の害虫

目	害虫名	主な加害作物	主な発生時期	重要度
直翅目	ヒシバツタ	ラジノクローバ, ルーサン, トールオートグラス	7月上, 8下~9月上	+
	ホシササキリ	バヒア, オーチャードグラス	7月, 8下~9月	+
	エンマコオロギ	トールオートグラス	7~9月	+
総翅目	シバズ	トールオート, オーチャード, バヒアグラス	9~10月	+
	アザミウマの1種	バヒア, イタリアンライグラス	5~8月	+
半翅目	シラホシカメムシ	ダリス, バヒアグラス	8~9月	+
	イチモンジカメムシ	ラジノクローバ	8月下	+
	ヒメナガカメムシ	オーチャードグラス	5月	+
	ホソナガカメムシ	スーダングラス	9月	+
	アカスジメクラガメ	スーダングラス	9月	+
	オオヨコバイ	イタリアンライ, トールオートグラス, ラジノクローバ	7月, 9~10月	+
	マダラヨコバイ	ルーサン	9月	+
	トバヨコバイ	イネ科 特にバーミュエダグラス	6下~7月上, 9月~	+
	ツマグロヨコバイ	トールオート, オーチャードグラス	8下~9月上	+
	クロミヤクイチモンジヨコバイ	オーチャードグラス(水田地帯)	9下~10月	+
翅目	ヨツテンヨコバイ	バヒアグラス	9下~10月	+
	ミドリナガヨコバイ	レッドクローバ	7上~8月中	+
	ウスバミドリヨコバイ	イネ科	9~11月	+
	アオズキンヨコバイ	イタリアンライグラス	6月	+
	キンミドリコバネヨコバイ	メドハギ, ルーサン	9~10月	+
	ヨツモンヒメヨコバイ	バーミュエダグラス	8月	+
	ミドリヒメヨコバイ	バヒア, ダリス, トールオート, オーチャードグラス	8~10月	+
目	ヒメトビウンカ	ルーサン, ラジノ, レッドクローバ	6~8月	+
	シロウズウンカ	イネ科	6上~7月上, 9月	+
	ムギヒゲナガアブラムシ	特にトールオートグラス, ケンタッキー31フェスク	6上~7月上, 9月	+
	キビクビレアブラムシ	バーミュエダグラス	6~7月, 9~10月	+
	エンドウアミナシヒゲナガアブラムシ	イネ科	5月下, 9~11月	+
	ラジノクローバ	トウモロコシ	9~10月	+
ルーサン	ラジノクローバ, ルーサン	5月下, 9~11月	+	

鱗翅	モシロチヨウ	セブントップ	10月	廿
	コフサキバガ	セブントップ	11月	
翅	アツクサヤガ	ルーサン, ラジノクローバ	7~9月	卅
	フタオビコトウ	トウモロコシ, スーダングラス	6~10月	
目	スハシモトウ	ルーサン	8月上	卅
	シロシヨトウ	ルーサン	9月	
鞘翅	マダラチビメツキ	オーチャードグラス(水田地帯)	5月, 9月	卅
	ホタルハムシ	トールオート, オーチャード, パーミュダグラス	7下~8月	
翅	ハムシの1種	ラジノクローバ, ルーサン	5月下	卅
	ヒメキバナサルハムシ	ラジノクローバ, ルーサン	10~11月	
目	ダイコンサルハムシ	セブントップ	6月上	卅
	キスジノミハムシ	セブントップ	5~8月	
鞘翅	キアミノミハムシ	ルーサン	8月	卅
	サビヒョウタンゾウムシ	ルーサン	8月下	
双翅目	シバヒメハナバエ	オーチャードグラス	5月	卅
膜翅目	フタホシハバチ	オーチャード, トールオート, イタリアンライグラス	8月	卅
昆虫外	ウスカワマイマイ	ラジノクローバ	5~6月上	卅
	ナメクジの1種	ラジノクローバ	6~7月	

第2表 阿蘇牧野における害虫

種名	調査地区		調査地区							
	原野	人工草地	原野	人工草地	原野	人工草地	原野	人工草地		
	民営草地	自然草地	改良牧野	傾斜地牧野	集約牧野	民営草地	自然草地	改良牧野	傾斜地牧野	集約牧野
シヨウリヨウバク	7	4	0	0	0	11	1	19	3	0
ヒシバク	13	0	0	12	3	0	0	17	5	7
クヒクヒ	6	0	0	0	0	34	0	2	0	0
ヤメコオロギ	13	7	0	1	2	9	0	0	0	0
カマシ	1	23	0	0	0	0	0	2	5	0
マダラ	4	0	10	7	8	0	9	1	0	0
オオヨコバイ	5	0	1	3	0	0	13	0	0	0
マダラヨコバイ	0	0	10	17	1	0	0	4	5	11
マダラヨコバイ	1	0	12	2	0	1	0	56	7	3
マダラヨコバイ	11	1	136	305	2	0	0	13	23	38
サノトガリヨコバイ	12	1	0	0	0	0	0	10	4	7
ヤノトガリヨコバイ	153	65	40	0	6	0	0	39	18	14

注 調査当時の草種 民営草地(シバ, ススキが最も多くササが混在)  
 自然草地(チガヤが最も多く, ササ, ススキなどがこれに次ぎヤハズ草などのマメ科植物も混在)  
 改良牧野(チガヤが最も多くササ, オーチャードグラス, ラジノクローバ, ススキなど)  
 傾斜地牧野(レッドトップが最も多く, オーチャードグラス, ラジノクローバの順)  
 集約牧野(ラジノクローバが最も多く, オーチャードグラス, イタリアンライグラスが混在)

Ⅱ. 牧野において採集された害虫は直翅目17種, 半翅目27種, 鞘翅目12種, 鱗翅目9種, 双翅目7種であったがこれ等のうち比較的生息数の多い種を調査地区毎に記したのが第2表で, 調査地区の名称は熊本種畜牧場命名による名称をそのまま用いた。

原野と人工草地では生息昆虫に相違がみられ, 特に目立つことは原野で直翅目が種類, 生息数共に多いのに対して人工草地では少く, 又原野には鞘翅目が極めて少いのに対して人工草地では非常に多い, 半翅目のウンカ・ヨコバイ類は原野においてはヤノトガリヨコバイが非常に多いのに対して人工草地ではチガヤ, ササの多く残っている改良牧野に比較的多いだけでほと

んど生息がみられず, 代つて原野に全くいないか或いは非常に少いトバヨコバイ, ヒメトビウンカ, オオヨコバイが多くなっている. この他人工草地においてはハスモンヨトウ, ウスグロアツバ, コフサキバガ, マメハンミョウ, オンブバッタ, エンマコオロギなどの生息がみられ, 人工草地化によつて害虫の種類, 生息数共に多くなっていることがうかがわれる。

むすび: 飼料作物圃場に生息する害虫のうち生息数の多い種及び加害程度の高い種について, その発生概要, 阿蘇牧野の調査結果について報告したが, 飼料作物害虫の発生相調査は継続中であり, 主要種の発生消長については追つて報告する。